



# 筑波学院大学 対談特集

日本スポーツ振興センター理事長 河野 一郎さん × 筑波学院大学学長 大島 慎子さん

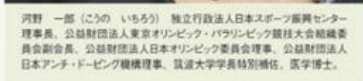
地域と連携し、地域と世界に貢献する人材育成を目指す筑波学院大学。新設するビジネスデザイン学科では、バランスよく能力を磨くためにスポーツ精神が必要と考える大島慎子学長と、競技人口のすそ野を広げる幅広い活動を展開する日本スポーツ振興センターの河野一郎理事長に、東京五輪開催に向け、「スポーツの持つ教育的価値と可能性」について語ってもらった。



この業界やトップアスリートのための施設もある国立スポーツ科学センターやナショナルトレーニングセンターの管理・運営経験を持つ。また、スポーツ振興センターの理事も経験している。近年で活躍の場を広げ、人材の育成に貢献するため、河野さん自身も自ら打ち込むことなく、活動してこられた。

## 人材育てる大学の役割

大島 私は自分自身が選手としての経験が豊富なため、競技者としての視点も持っています。努力が結果を必ずしも生み出さない時に、自分を打ち込むことなく、精神的に多くの人材を育て



大島 慎子（おおしま ちかこ） 早稲田大学修士課程、千葉商科大学博士課程修了。ルフハンザドイツ航空客室乗務員、日本韓国地区広報室長を経て2006年より筑波学院大学教授。12年より現職。専門は航空・観光政策、茨城県私学審議会委員、国土交通省航空安全部会委員、つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員。

# スポーツで地域を元気に

## 生活に取り入れる工夫を 河野

河野 一部の（この内の）独立行政法人日本スポーツ振興センター理事長、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会副会長、公益財団法人日本オリンピック委員会理事、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構理事、筑波大学学長特別補佐、医学博士。

り、ある程度の年齢を過ぎても、年齢を問わずにスポーツをすることが、健康維持や生活の質を向上させることに効果的である。河野さんは、この点に着目して、大学が持つべき役割として、地域に根ざしたスポーツの普及を挙げている。

## 東京五輪開催に向けて

河野 人財育成は、必ずしもスポーツに限らず、様々な分野で必要とされています。日本は、東京五輪開催に向けて、人財育成の重要性が改めて認識されています。

河野 人財育成は、必ずしもスポーツに限らず、様々な分野で必要とされています。日本は、東京五輪開催に向けて、人財育成の重要性が改めて認識されています。

## 市民が楽しめる場を提供 大島

大島 市民が楽しめる場を提供することは、大学の重要な役割の一つです。大学が持つべき役割として、地域に根ざしたスポーツの普及を挙げている。

大島 市民が楽しめる場を提供することは、大学の重要な役割の一つです。大学が持つべき役割として、地域に根ざしたスポーツの普及を挙げている。

## 大学の役割と可能性

大島 大学の役割は、単に知識の伝達だけでなく、社会に貢献する人材の育成にあります。スポーツは、この点において、重要な役割を果たしています。

大島 大学の役割は、単に知識の伝達だけでなく、社会に貢献する人材の育成にあります。スポーツは、この点において、重要な役割を果たしています。

河野 大学の役割は、単に知識の伝達だけでなく、社会に貢献する人材の育成にあります。スポーツは、この点において、重要な役割を果たしています。

大島 大学の役割は、単に知識の伝達だけでなく、社会に貢献する人材の育成にあります。スポーツは、この点において、重要な役割を果たしています。

大島 大学の役割は、単に知識の伝達だけでなく、社会に貢献する人材の育成にあります。スポーツは、この点において、重要な役割を果たしています。